

平成28年度「T-GAP」実践報告

著者	深澤 孝之, 建元 喜寿, 仲本 佳子, 熊倉 悠貴, 安藤 愛, 後藤 卷子, 高畑 啓一
雑誌名	研究紀要
巻	54
ページ	20-34
発行年	2017-07
URL	http://hdl.handle.net/2241/00151249

平成 28 年度「T-GAP」実践報告

深澤 孝之 建元 喜寿 仲本 佳子 熊倉 悠貴
安藤 愛 後藤 卷子 高畑 啓一
(平成 28 年度 T-GAP 授業担当者)

SGH 事業の中心的課題は課題研究活動である。この授業では課題研究活動の基礎的素養である課題発見力および課題解決力の育成を目指した。あわせて SGH 事業の対象地域としている「ASEAN」について学ぶ時間を設定した。また本科目は本校総合学科教育の柱としての役割を担うものでもある。本年度の実践について報告する。

キーワード 課題発見 課題解決 ASEAN 卒業研究 SGH

1. T-GAP の位置づけと目標

本科目は、現3年次生が1年次キャリアデザインおよび2年次総合的学習の時間で実施してきた「つくさかグローバルアクションプロジェクト(t-GAP)」をベースに、本年度国際科の科目として開設したものである。本校ではこれまで2年次総合的学習の時間において、「t-GAP」のようなグループによる課題発見・課題解決活動と3年次卒業研究につながる個人での課題発見・課題解決活動を中心に授業を実施してきた。これは課題解決型学習をまずはグループで行った後、その経験をいかして個人の研究活動につなげていくという意図で構成したものである。学校設定科目としての開設は SGH 事業の一環でもあるため、総合的学習の時間として実施してきた内容に加えて、SGH 事業の主な対象地域である ASEAN についての見識を広げ、そこから国際的な日本の立場や役割について考察する内容も加えることとした。

本校のキャリア教育の基礎となっているのが、総合学科開設以来いくらかの変遷はあるものの、1年次「産業社会と人間」・「キャリアデザイン」、2年次「総合的学習の時間」、3年次「卒業研究」という継続した学習活動である(図1)。本科目においても、これまで総合的学習の時間が担ってきた本校キャリア教育を支える年次ごとの柱としての役割を持たせることも重要であった。

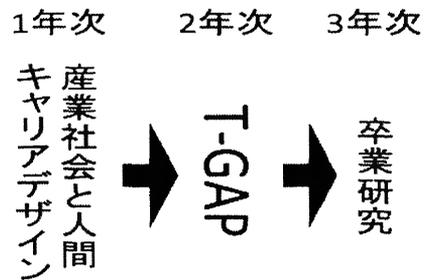


図1 キャリア教育の年次ごとの柱

これらを踏まえて、本科目では次の3つの目標を設定した。

- ・アジア地域、特に ASEAN に関する基礎的・基本的な理解を図りながら、国際的な日本の立場や役割について考察できる視点を養う。
- ・国際的な視点を持って身近な課題を発見し、協働しながらその課題を解決しようとする態度を養う。
- ・自らの興味関心をもとに課題を発見し、その課題について客観的な視点を持って探求していくための方法について理解し、積極的に実践しようとする態度を養う。

T-GAP の科目開発は単年度で行うのではなく、来年度以降も改善を重ねながら進めることになる。科目の目標も基本的な考え方は引き継がれるが、生徒の活動状況などに応じて修正が加えられる。

2. 科目の内容

本年度 T-GAP は以下のような内容で構成することとした。内容についても来年度以降、本年度の反省等を踏まえて改編される。

(1)ASEAN を知る

- ア ASEAN に関する概要理解
- イ AIMS (ASEAN 地域からの留学生) との交流

(2)GAP (グローバルアクションプロジェクト) の実践

- ア 課題の発見
- イ アクションプランの立案
- ウ アクションプランの実行
- エ 振り返りと成果発表

(3)卒業研究への準備

- ア 卒業研究のテーマ設定
- イ 先行研究の調査と資料整理
- ウ 研究の構想

3. 今年度の授業概要

科目の内容のうち、(2)GAP (グローバルアクションプロジェクト) の実践と(3)「卒業研究への準備」については昨年度までの実績をもとに具体的な授業を組み立てることができたが、(1)「ASEAN を知る」については初めての内容でもあったため、2 つの授業を展開することとした。A～C 組 (IG クラス) は全 6 時間の ASEAN リサーチを、D 組 (SG クラス) は全 28 時間の ASEAN ゼミを実施した。特に SG クラスで時間を多く取ったのは、SG クラスの生徒は SGH 事業の国際フィードワークや海外卒研支援プログラムなどで ASEAN の地域に渡航したり、また ESD 国際シンポジウムなどでも ASEAN からの留学生や招聘者と交流したりすることが多く、様々な場面でのディスカッションに備える必要があったためである。

以下、授業の具体的な展開について述べる。また T-GAP の年間学習計画を資料 1 に示す。

3-1 ASEAN を知る「ASEAN リサーチ」

ASEAN リサーチでは、IG クラス 120 名を 1 班 6 名の 20 班に分け、以下のテーマを割り振って調査活動を行った。テーマは以下の通りである。

○1～10 班

アセアンの国をそれぞれ 1 か国担当し、その国の概略と具体的なトピックを各班で選びまとめる。

インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス

○11～20 班

アセアンに関する具体的な課題に取り組む

- ・日本とアセアンの貿易
- ・日本とアセアンの歴史① (平和の視点から)
- ・日本とアセアンの歴史② (人的・文化的視点から)
- ・日本で働くアセアンからの看護師・介護士
- ・アセアン地域で働く日本人
- ・アセアン地域における日本語教育について
- ・日本とアセアンにある世界遺産について
- ・日本とアセアンをわたる鳥たち (環境分野の研究)
- ・日本とアセアンで活躍する NGO
- ・日本でアセアンの皆さんと交流するには
- ・日本とアセアンのポップカルチャー

調査結果は、最終的にポスター 1 枚に英語でまとめた。平成 28 年 5 月 28 日 (土) には、筑波大学が実施している大学の世界展開力事業「ASEAN International Mobility for Students (AIMS)」に参加している ASEAN 各国の大学生約 30 名が来校した。この際、シンガポールを除くアセアン 9 か国から参加があった。「留学生参加型ポスターセッション」とし、英語の間違いや内容の違うところを、ポスターに直接書き込んでもらった。生徒にとっては、自分たちの調べたことを、その国の人に直接見てもらえ、モチベーション高く活動に取り組むことができた。

3-2 ASEAN を知る「ASEAN ゼミ」

ASEAN ゼミでは、「ASEAN を知るための 50 章」(黒柳米司・金子芳樹・吉野文雄編著 明石出版 2015) を参考書として、生徒一人が参考書の各一章を担当し、持ち時間 20 分程度の授業(講義)を行う形式で実施した。

「ASEAN を知るための 50 章」は大学生または一般社会人を対象として編集され、内容は「ASEAN を多面的に

取り上げ、それへの関心を導くとともに、アジア太平洋地域の複雑で微妙な文脈のなかで ASEAN を理解する視線を養うために編集された」(出版社 HP) と紹介されている。それぞれの章は 4 ページ程度で記述されており、生徒一人が担当する分量としてはそれほど多くないものの、そこに書かれている内容を理解するためには、自分の知らないことばなどについて、かなりの時間をかけて調べることが必要となる。授業にあたっては必ず補助プリントや提示資料などを用意し、授業を受ける側の理解が進むよう工夫することも課題とした。ASEAN ゼミを実施した D 組は 37 名であったため、50 章の内の 37 章を選んで、生徒に自分が担当したい部分を選択させた。50 章の内容を資料 2 に示す。資料内の※は今回の授業から除外した項目である。

評価は、

- ①担当した章の授業内容(提示資料など)と補助プリントの教員評価
- ②担当した章の授業内容(提示資料など)と補助プリントの生徒による相互評価
- ③テスト
- ④ヒアリング
- ⑤特別公演後のレポート

で行った。④のヒアリングは集団面接形式の聞き取り試験である。その際のヒアリング質問項目と評価の観点について資料 3 に示す。また、ASEAN ゼミ終了時に生徒に書かせた授業に対する自由記述コメントを資料 4 に示す。

3-3 GAP の実践

GAP の活動は、IG クラス 120 名を 1 班 6 名の 20 班に分けて実施した。各班で「グローバルとは何か、グローバルな課題とは何か」を話し合い自分たちで課題を設定し、夏休みから文化祭にかけて、「小さなことで良いので、何か自分たちでアクションをしてください。」と指示をだした。課題設定が難しかった班、グループのメンバー間のチームワークが取れなかった班、リーダーが悩みを抱えた班など、様々であったが、それぞれが課題を設定し、アクションを行うことができた。表 1 に各班の活動テーマを示す。また各班の活動状況と指導担当者のコメントを、資料 5 にまとめた。

調べ学習、それをもとに提案を行うことは、多くのところで実施されている。しかし、実際に世界の課題を解決しより良い持続的な社会を構築していくには、どんな小さなことでも自分が当事者となりアクションを起こし

ていくことが重要であるとの考えのもと、本校のグローバル人材育成活動ではアクションを重視している。班によっては大変なところもあったようだが、観光地の外国人観光客にインタビューをした生徒、NPO と連携を図った活動を行う生徒、校内の畑を活用して活動を行う生徒など、それぞれが考えたアイデアを実践することができた。平成 28 年 10 月 8 日および 15 日の 2 日間にわたり、パワーポイントでまとめたプレゼンを全ての班が実施した。班により、ばらつきはあるものの、自分たちが実施した内容だけに、非常にレベルとモチベーションの高い発表が続いた。次年度以降も「当事者」「アクション」「小さなことでも」をキーワードに活動を実施したい。

評価は、

- ①各授業の活動レポート
- ②担当者によるグループの活動評価
- ③成果発表会の内容・プレゼンの教員評価
- ④成果発表会の内容・プレゼンの生徒相互評価
- ⑤ヒアリング
- ⑥活動の振り返りレポート

で行った。④のヒアリングは集団面接形式の聞き取り試験である。その際のヒアリング質問項目と評価の観点について資料 6 に示す。

表 1 GAP 活動グループ別テーマ

GAP 活動テーマ (リーダー)	担当者
外来種について (松村 G)	建元
ゴミ問題 (関根 G)	後藤
アボガド (今井 G)	後藤
学校 P.V. (平松 G)	高畑
グローバルとは何かを本から学ぶ (関口 G)	建元
電力を使わずに室温を下げる (石川 G)	仲本
ペットボトルキャップ (菅野 G)	仲本
ビクトグラムの改良 (三軒家 G)	安藤
校内地図 (戸室 G)	後藤
スシパーティー (稲場 G)	建元
便利グッズで世界を平和に Love&Peace (海老原 G)	安藤
JICA って何? (山岸 G)	高畑
泥水を生活用水にかえる (西野 G)	仲本
オーガニック野菜について (新井 G)	熊倉
外来種の活用 (飛澤 G)	熊倉
動物の殺処分について (川村 G)	建元
国際結婚について (内山 G)	安藤
HALAL 流しそめん交流会 (石山 G)	高畑
海外の方々向けマップ作り (早川 G)	熊倉
筑坂フードドライブプロジェクト (横田 G)	仲本

3-4 卒業研究への準備

卒業研究は 3 年次におかれている学校設定必修科目である。3 年次の 9 月以降は入試のための準備が本格的に始まり、時間をかけて課題研究活動に向き合う時間が少なくなるとともに、生徒自身の気持ちの影響もあって、例年研究そのものを進めることが難しい状況となる。つまり研究に取り組むことができるのは 3 年次の 1 学期と夏休みということになる。そのため 3 年次になり卒業研

究の授業が始まってからテーマ設定を行ったのでは、実質の活動時間はほんのわずかになってしまう。そのため平成16年度より2年次の総合的学習の時間を利用して、卒業研究のテーマ設定に関する指導をはじめ、2年次末に卒業研究の構想発表会を行うようにした。このためT-GAPの内容に総合的学習の時間で実施していた卒業研究に関する学びを含めることは必然的に求められた。一方で本科目はSGH事業の一つとして開発を進めており、課題研究活動である卒業研究のための時間を科目の内容におくことはSGHとしての成果を上げるためにも重要なことであると考えている。

課題研究活動で生徒が最も苦勞するのが、研究のテーマ設定である。テーマ設定の仕方についてはカナダ校外学習において個人課題研究を行ったが、その場面でもテーマ設定に関する考え方や具体的方法について説明を行っている。また、GAP活動の課題発見の場面でも同様の活動を行った。卒業研究のテーマ設定の段階においては、再度同じような説明を行った後、約40日間をテーマ相談期間とし、自分が考えている卒業研究のテーマについて、昼休みや放課後の時間を使って、最低でも本校教員3名とディスカッションするという課題を与えた。教員には相談の対応と、事前にアポイントメントを取るなど、相談をお願いする場合の基本的な態度についての指導もあわせてお願いした。この相談を受けて12月にテーマ発表会を行った。また、冬休みには先行研究や参考文献の調査とそれをもとにしたレポート作成を課した。その際、レポートの評価に関する基準を示し、生徒がレポートで何を求められているのか認識できるようにした。生徒に配布したプリントを資料7に示す。

今後生徒は具体的な研究活動に移行していく。研究が進んだ場合、3月の構想発表会で中間発表会程度の成果を発表する生徒も出てくる。来年度4月からは生徒10名につき1名の科目担当者がつくことになるが、現在は7名の科目担当であるため、来年度の卒業研究の担当予定教員に、特に進捗の早い生徒の対応をお願いすることとなる。逆に苦戦していたり、早々にテーマを変更したりという生徒も出てくるのが予測される。生徒の卒業研究に対するモチベーションを下げることなく3年次に引き継ぐことができるようそのような生徒へサポートをしていく必要があると考えている。

評価は

- ①第一次レポート（主に先行研究まとめ）教員評価
- ②第一次レポート（主に先行研究まとめ）生徒相互評価

③第二次レポート（主に研究計画）の教員評価
④活動報告書の教員評価
で行った。

4. 科目の評価

今年度は科目の目標を3項目立て、その目標を達成するために3項目の授業を展開した。SGクラスは内容(1)の「ASEANを知る」に重点をおいたため、内容(2)の「GAPの実践」を行っていなかったり、IGクラスは逆に「ASEANを知る」の内容が6時間とかなり少ない時間配当になったりした。本来は目標としたことをすべて達成できるようにバランスよく授業を展開することが必要である。一方、科目開発をしていく場合は試行的にいくつかの方法を試したり、生徒の活動時間を十分にとって効果は上がるのか、逆にあまり生徒の実態に合っていないのかなど確かめたりする必要も出てくる。これらをまとめて次年度の科目担当者に報告し、授業内容改善に役立てもらうことになる。

T-GAPはSGH事業の一つとして開発を進めているものであるが、科目開発のための委員会等が組織されているわけではなく、科目担当者が企画・授業立案から実際の授業、授業後の評価に至るすべてを担っている。そのため、それぞれの年度の実践等が十分に引き継がれないと、科目の内容が深化せず、科目の開発としては不十分なものになる。

現時点で科目全体を通した評価は終わっていないので、それについては次巻研究紀要等で報告することとする。

（この実践報告は平成28年度筑波大学附属坂戸高等学校総合学科教育研究大会の資料集に発表したものを、改編して掲載しています。）

【資料1】T-GAP 年間計画

H28 T-GAP 年間計画

回(IG)	回(SG)	月日	内容	IGクラス	SGクラス	備考
—	—	4月16日	—	キャリアデザイン追加指導	キャリアデザイン追加指導	対象生徒
—	—	4月23日	—	キャリアデザイン追加指導	キャリアデザイン追加指導	対象生徒
—	—	4月30日	—	キャリアデザイン追加指導	キャリアデザイン追加指導	対象生徒
1	1	5月7日	IG: ASEANを知る SG:ASEANを知る	ASEANリサーチ①	ASEANゼミ①	
2	2	5月14日	IG: ASEANを知る SG:ASEANを知る	ASEANリサーチ②	ASEANゼミ②	
3	3	5月28日	IG: ASEANを知る SG:ASEANを知る	ASEANリサーチ③	ASEANゼミ③	ASEANリサーチ AIMS来校参加
4	4	6月4日	IG: ASEANを知る SG:ASEANを知る	アイデアを形にする①	ASEANゼミ④	
5	5	6月11日	IG: ASEANを知る SG:ASEANを知る	アイデアを形にする②	ASEANゼミ⑤	
6	6	6月18日	IG: ASEANを知る SG:ASEANを知る	アイデアを形にする③	ASEANゼミ⑥	
7	7	6月25日	IG: ASEANを知る SG:ASEANを知る	アイデアを形にする④	ASEANゼミ⑦	
	8	7月11日	SG:ASEANを知る	-----	ASEANゼミ⑧	特別講演会 黒柳米司先生
8	9	7月14日	IG: ASEANを知る SG:ASEANを知る	映画鑑賞	映画鑑賞	「The True Cost」
	10	7月19日	SG:ASEANを知る	-----	ASEANゼミ⑨	特別講演会 首藤もと子先生
		夏休み期間	IG:GAPの実践	アクションプランにしたがって活動	-----	
	11	9月3日	IG:GAPの実践	夏休みの活動振り返り	夏休みの活動振り返り	宿題の提出
		文化祭	IG:GAPの実践	アクションプランにしたがって活動	-----	
9	12	9月17日	IG: GAPの実践 SG:ASEANを知る	活動の振り返り	ASEANゼミ⑩	
10	13	9月24日	IG: GAPの実践 SG:ASEANを知る	報告会準備	ASEANゼミ⑪	
11	14	10月8日	IG: GAPの実践 SG:ASEANを知る	報告会準備	ASEANゼミ⑫	
12	15	10月15日	IG: GAPの実践 SG:ASEANを知る	報告会	ASEANゼミ評価テスト	
13	16	10月22日	IG: GAPの実践 SG:ASEANを知る	報告会	評価ヒアリング	
14	17	10月29日	IG: GAPの実践 SG:ASEANを知る	評価ヒアリング	AIMS(筑波大学留学生)交流会	AIMS来校
15	18	11月12日	IG: 卒業研究への準備 SG:卒業研究への準備	卒業研究テーマについて①	卒業研究テーマについて①	
16	19	11月19日	IG: 卒業研究への準備 SG:卒業研究への準備	JICA・OV講話	JICA・OV講話	JICA OV 8名来校
17	20	12月3日	IG: 卒業研究への準備 SG:卒業研究への準備	高校生活の振り返り	高校生活の振り返り	教員免許更新講習 公開授業
18	21	12月10日	IG: 卒業研究への準備 SG:卒業研究への準備	卒業研究テーマについて②	卒業研究テーマについて②	
19	22	12月17日	IG: 卒業研究への準備 SG:卒業研究への準備	卒業研究テーマ発表会	卒業研究テーマ発表会	
		冬休み期間	IG: 卒業研究への準備 SG:卒業研究への準備	先行研究調査・まとめ・レポート作成	先行研究調査・まとめ・レポート作成	
20	23	1月28日	IG: 卒業研究への準備 SG:卒業研究への準備	構想発表会に向けて①	構想発表会に向けて①	
21	24	2月4日	IG: 卒業研究への準備 SG:卒業研究への準備	構想発表会に向けて②	構想発表会に向けて②	
22	25	2月25日	IG: 卒業研究への準備 SG:卒業研究への準備	卒業生と語る会	卒業生と語る会	卒業生18名来校
23	26	1月28日	IG: 卒業研究への準備 SG:卒業研究への準備	構想発表会に向けて③	構想発表会に向けて③	
24	27	2月4日	IG: 卒業研究への準備 SG:卒業研究への準備	構想発表会に向けて④	構想発表会に向けて④	
25	28	2月17日	IG: 卒業研究への準備 SG:卒業研究への準備	プレ構想発表会	プレ構想発表会	総合学科研究大会
26	29	3月1日	IG: 卒業研究への準備 SG:卒業研究への準備	構想発表会に向けて⑤	構想発表会に向けて⑤	
27	30	3月9日	IG: 卒業研究への準備 SG:卒業研究への準備	構想発表会に向けて⑥	構想発表会に向けて⑥	
28	31	3月10日	IG: 卒業研究への準備 SG:卒業研究への準備	構想発表会	構想発表会	
	32	3月16日 ～3月18日	IG: 卒業研究への準備 SG:卒業研究への準備	-----	課題解決トレーニング合宿	テラス(株)の協力

【資料2】 「ASEANを知るための50章」の各項目

I ASEAN生成発展の歴史

- 第1章 ASEAN前史——海洋部東南アジアの地域紛争
- 第2章 ASEANの誕生——和解から提携へ
- 第3章 ASEANの発展過程——危機・離陸・そして「成功物語」
- 第4章 ASEAN拡大の軌跡——ASEAN-5からASEAN-10へ
- 第5章 ポスト冷戦期のASEAN——自信に基づく自己主張

II ASEANの制度と機構

- 第6章 「バンコク宣言」——ASA設立文書との類似性
- 第7章 ASEANの事務組織——合意実施をサポートする最小限の組織※
- 第8章 意思決定機関——各国が平等な立場で参加※
- 第9章 ASEAN首脳会議——最高意思決定機関となって重責を担う※
- 第10章 ASEAN議長国——合意成立のための仕組みと利害反映の手段※
- 第11章 ASEAN加盟手続き——地域協力への通過点※
- 第12章 地域機構の国際比較——評価のための3側面
- 第13章 トラック2——ASEANを支える貴重なアクター※
- 第14章 ASEAN Way——ASEAN成否の鍵
- 第15章 内政不干渉原則——ASEAN基本原則と実態
- 第16章 ASEANのテロ対策——非伝統的安全保障への模索
- 第17章 東南アジア友好協力条約——地域平和のための基本条約
- 第18章 プレア・ビヒア寺院紛争——ASEAN型紛争解決のモデル？
- 第19章 タイの政情不安とASEAN——民主化先進国の挫折
- 第20章 ASEAN域内紛争——多様な紛争への対応
- 第21章 エスニック問題——「多様性のなかの統一」を阻む諸問題
- 第22章 ASEAN憲章——その意義と課題
- 第23章 ASEAN政府間人権委員会——ASEAN人権機構の理想と現実※
- 第24章 ASEANと市民社会——共同体設立後の民主化の展望※
- 第25章 非伝統的安全保障——新たな脅威と新たな対応
- 第26章 東ティモール独立問題——東南アジア最後の独立国

IV 経済協力と地域統合

- 第27章 ASEAN経済協力の史的展開——経済協力の始動から経済共同体まで
- 第28章 アジア通貨危機の衝撃——災いを奇貨とした対アジア地域協力の拡大
- 第29章 ASEAN自由貿易地帯——アジアにおけるFTAの嚆矢
- 第30章 大メコン圏開発——インフラ整備が後発地域を変えるか
- 第31章 ASEAN型協力の展開——自由化・インフラ整備・格差是正※
- 第32章 観光をめぐる協力——競争のなかでの協力※
- 第33章 環境問題——地域的取り組みとその限界
- 第34章 ASEAN連結性強化——域内格差是正へのマスター・プラン※

V 広域地域秩序の構築

- 第35章 アジア太平洋経済協力——アジア太平洋の持続的繁栄へ
- 第36章 ASEANの会議外交——象徴としてのARF※
- 第37章 EAECとASEAN+3——「東アジア」の概念とその端緒
- 第38章 東アジア共同体・首脳会談——構想の展開と実現に向けた曲折※
- 第39章 TPP・RCEP——FTAAPへの2つの可能性
- 第40章 ASEANの「地域間主義」——「地域」対「地域」の連携へ

VI ASEANの対外関係

- 第41章 対中経済関係——中国の経済攻勢をどうはね返すか
- 第42章 対中政治関係——中国から見たASEAN
- 第43章 対米関係——取り込みと排除の相互作用
- 第44章 対日関係——吉田ドクトリン・福田ドクトリンから安倍5原則へ
- 第45章 南シナ海問題——島礁と資源をめぐる
- 第46章 日米中関係とASEANの中心性——ASEANの到達点

VII ASEANの展望と評価

- 第47章 政治安全保障共同体——共同体の三本柱の一つ
- 第48章 経済共同体——課題と展望
- 第49章 社会文化共同体——人々中心の共同体へのアプローチ
- 第50章 ASEANの評価と展望——深化と拡大の二重課題

※は今回の授業で取り扱わなかった章

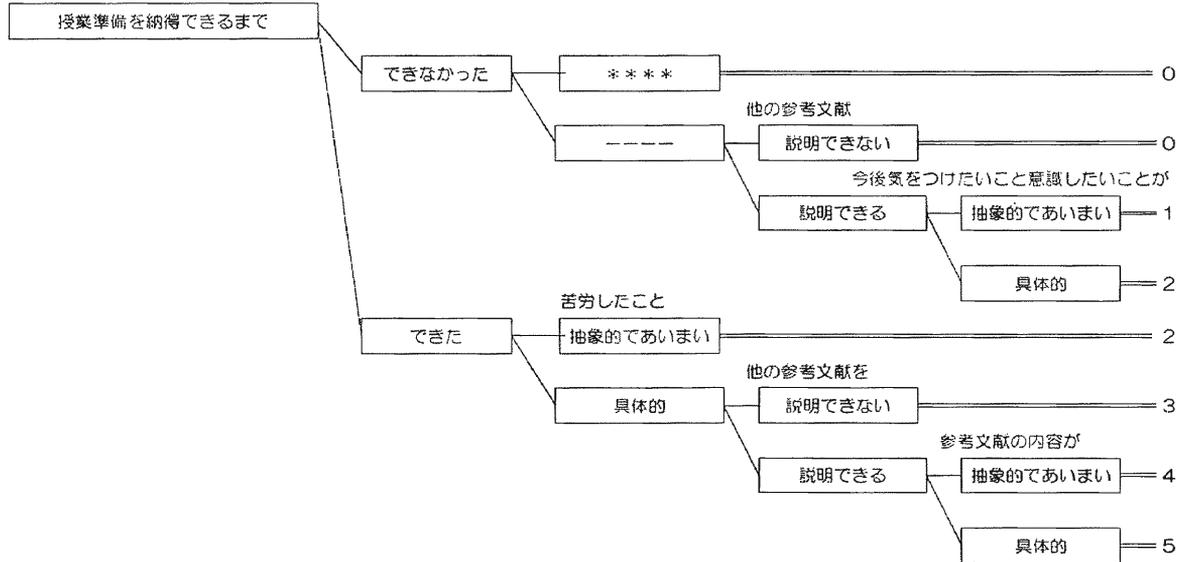
【資料3】 ASEAN ゼミヒアリング 質問項目と評価の観点

ヒアリング①(質問項目と評価の観点)

【取り組む姿勢】

項目1：あなたは ASEAN ゼミの授業をするにあたって、自分で納得できるくらいの準備をしましたが、苦労したことはどういことですか。また、参考書以外のものを参考としましたが、した場合は、具体的に挙げてください。

評価の観点

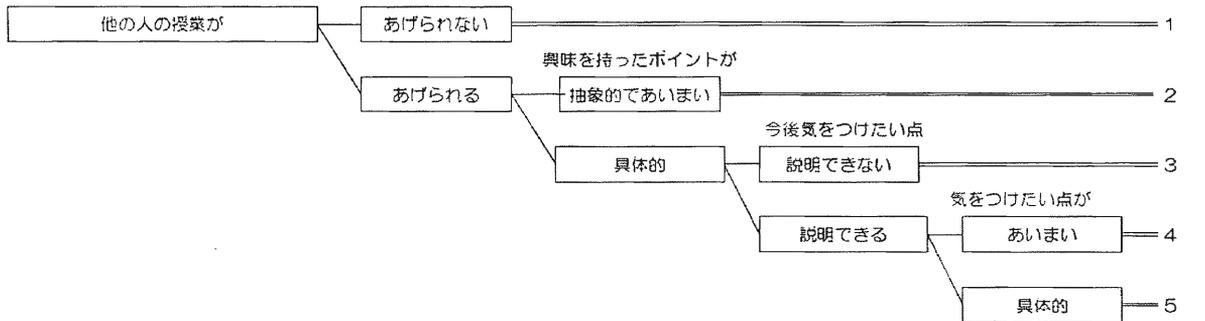


ヒアリング②(質問項目と評価の観点)

【アイデアカ 企画力】

項目2：自分以外の授業の中で、もっとも印象に残っているのは誰の授業ですか。また、それはなぜですか。また今後このような機会があったらどのような点に気をつけたいですか。

評価の観点

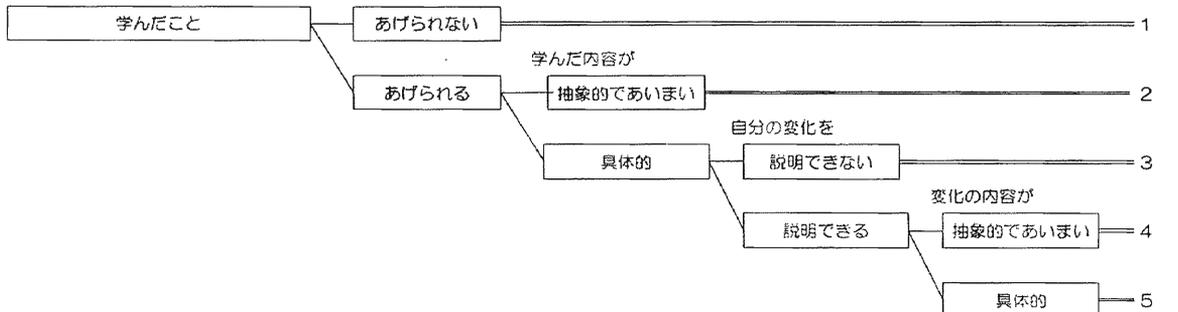


ヒアリング③(質問項目と評価の観点)

【課題発見力】

項目3：あなたは ASEAN ゼミを通して何を学びましたか。一つあげてください。また、そのことを学ぶ前と現在とであなた自身の考え方はどのように変化しましたか。

評価の観点



【資料4】 ASEAN ゼミの感想

本の内容をわかりやすくまとめて、皆にわかりやすく説明することが大変でした。自分もしっかり理解できていないのに皆に教えることが難しかった。

今回のASEANゼミを通して、ゼミを行う前はASEANという名前だけを知っているという浅い知識に過ぎませんでした。ゼミを通してASEANマスターとまでは行きませんが、ASEANについての基礎知識程度は身につけられたと他の授業やニュースを見ることを通じて感じました。世界の中でも注目を浴びていて、これから重要な役割を果たしてくるASEANについて知ることができてよかったと思います。

今回、初めてASEANに視点を置いて考えて自分の国のメリットがASEANにとってデメリットであること等に気づくことができた。

みんなが自分なりにまとめてくれていて、分かりやすい授業だった。新聞やニュースでもASEANについて流れると注意して見るようになった。

最初は全く意味が分からず大変だったけれどいろいろな人の授業を聞いているうちに理解できた

授業をする日のことを予想して作りました。作っている間にどんどん分からない部分が出てきて、自分で調べることが多く、大変でした。しかし、自分で理解してから挑んだ授業なので、かなり緊張すると思っていた授業が楽しくやり終えることができました。私は将来小学校の先生になりたいので、教壇に立つ最初の授業と思うと、とても熱が入りました。

今回のASEANゼミを通し、ASEANについて知れたのと同時に内容をかみ砕いてクラスの人に伝える難しさを知った。自分の授業で見つけた改善点など今後の活動に活かしていきたい。

最近新聞をよく読むのですが、その時に「事前に基礎知識を知っているだけでも理解度は違うな」と感じました。アセアンに限らず様々なことにおいての知識をもっとつけ、そのうえで判断できるようになりたいと思います。

ひとりひとりその人らしい解釈で説明してくれて分かりやすかったし、楽しかった。

aseanについて学習してみて、日本が援助をしていたりなど日本との関わりが多くて驚きました。アセアン諸国はどんどん発展をしていて、将来一緒に仕事をするのも増えてくると思うので、この機会にもうすこし深く学べたらいいなと思いました。

本の内容が難しく、どのようにわかりやすい授業を作るか苦戦しました。みんなの授業を聞いているときに、もっとこうすればよかったなと思うところがたくさんあり、自分の不甲斐無さに落ち込みました。出来ることならば、もう一度授業を行いたいです。反省点もたくさん見つかりましたが、人の前に立って何かを教えるということの難しさを学ぶことができました。「自分の伝えたいことを明確に伝えるためにはどうすればいいか」を考え、準備をしっかりしていきたいです。

今回のゼミがなければ、ASEANをこれほど深く知ることはできなかったと思います。また、対外関係についても考えさせられるものが多く自分の視野を広げることができたと思います。

専門用語とか政治の話が多くて難しかったけれど、みんなの要約が上手だったので理解しやすかったです。あのASEANの本よりはみんなのプリントのほうが読みやすくわかりやすいのではないかと思います

ASEANの授業を行って、ASEANの歴史や米国との関係性について知ったので、それを元にASEANの課題の解決法について考えたいと思った。

ASEANのことについてここまで深く学ぶことは今までなかったのでとてもいい経験になりました。

ASEANというワードは聞いたことあり、アジア圏の国の集まりだ、くらいの認識しかなかったのですが、それがもう少し、深まりました。

筑坂はASEANと関わりが深い学校なので、ASEANについて詳しく知ることができて良かったです。ASEANについてのニュースが多く報道されるなか、何が問題なのか何が原因なのかまだまだ分からないこと沢山あります。なのでこの授業を通してASEANについて興味を持ち、情報を仕入れたいと思います。

授業プリントが工夫されていてよかった。例えば、手書きの人は、似顔絵を描いたり、パソコンではできないことをしていた。そして、パワーポイントを使った授業ではアニメーションを使っていたりわかりやすかった。みんなのレベルが高く驚いた授業でした。

ASEANと他の地域との関係は小さなことから大きな問題まで様々な出来事の積み重ねでできているのだと知り、私も日頃の友達との関係を大切にしたいと思った。

この学習を始めるまでは、ASEANは完成した共同体なのだと思っていたが、調べた知れば知るほど不完全な点や、経済や安全協力の点での課題など、自分の知らなかった内容が多く興味がわいた。自分の知らないものを知ると面白さを改めて感じることができた。

今まで日本から近いASEAN のことについてとくに考えたことがなかったので今回のT-GAPの授業はためになった。

ASEANという名前しか知らないところから始まったASEANゼミでしたが、約20回の授業を通して、加盟国や今問題になっていること、そしてその歴史など、少しは知識がついたと思います。今回学んだことは、ただ知って終わりにせず、ニュースなどに出てきたら注目して見ていきたいと思っています。

【資料5】 GAP の実践 生徒の活動状況と担当教員のコメント

「食品ロス～フードドライブ活動～」

【活動概要】

日本での食費ロスは年間 632 万トンにもものぼり、これは世界中で行われている途上国などへ向けた食料援助の量のおよそ 2 倍にあたるともいわれている。また、そのうちの半数以上が家庭から出されているとの報告もある。この事実課題意識を持ち、坂戸市役所へ現状調査に行くことから始めた。実際、坂戸市では具体的な取り組みがなされておらず、川越市、浦和市での調査を行い、フードドライブを行っている団体で活動ボランティアをした。さらにその経験を活かし、本校文化祭において全校生徒、保護者を対象にフードドライブ活動を実施した。残念ながら文化祭では食品は集まらなかったが、その後自分たちの活動を振り返り、それまでの活動に改善を加え引き続き活動を進めた。最終的には川越市の団体へ食品を届けることができた。

【担当者より】

「世界には食べられない人がいるのに、こんなに食べ物が捨てられているのはおかしい。けれど、自分たちには何ができるのだろうか？」活動を始める前は自分たちの無力さを嘆くばかりだった彼らが、「自分たちにできることから始めよう！」と気持ちを切り替えてからは、メンバーそれぞれの特徴を生かし、精力的に活動を行った。この活動を通し、校内のみならず、外部の人たちともつながった経験、また食品ロスから見たそれぞれの課題を、これからの学びに生かしてほしい。(仲本 佳子)

「ペットボトルキャップの行方を探る」

【活動概要】

発展途上国では文房具すら揃わない現状を知り、文房具を届ける方法を探した。しかし、調査を進めれば進めるほど、疑問点が増えてきた。どこの団体を通すべきか、そもそも集めた文房具は本当に現地に届くのだろうか。メンバー内でのコミュニケーション不足も加わり、活動は暗礁に乗り上げていた。あるとき、校内で集められているペットボトルキャップが途上国の子供たちにワクチンを届ける活動だったことを知り、活動は再開した。近隣のスーパーマーケット、コンビニエンスストアに調査に出かけ、校内に設置されている自動販売機会社、キャップを集めている団体にインタビューを行った。実際、このペットボトルキャップ回収でワクチンを届ける活動には不透明な部分が多くあり、少なくとも本校でのリサイクル活動において、ペットボトルキャップ回収の必要はないことがわかった。

【担当者より】

メンバー一人ひとりが「誰かのために何かをしたい」という思いを持ちながらも、自分と他者、世界とのつながりの接点を見出すことに時間がかかった。決められたことをするのではなく、思いを実現するために必要なことを探り、自分自身に正直に向き合った彼らにとって、本校のリサイクルの仕組みをあらためて校内に発信できたことは大きな成果だった。この活動を通して体験したコミュニケーション力を今後生かしてほしい。(仲本 佳子)

「途上国の教育環境整備へ向けて」

【活動概要】

本校では各教室にエアコンが設置されている。それでも夏の暑い日に授業に集中することは難しい。ましてや暑い国々、特に教育環境の整わない途上国の教室で学ぶことはどれだけ大変だろうか。この教育環境に課題を見出し、活動を始めた。各国の現状を調べ、低コスト、しかも現地で材料が調達できる装置の作成を目指した。ミスト式扇風機をはじめ様々な装置の試作を試みたが、最終的にはペットボトルを活用した装置をつくり、実験を重ねた。実験は日本国内で行ったため、現地での実用検証はされていないが、作成した装置によって室内温度を下げることに成功した。

【担当者より】

現状調査班と実験班とに分かれ、それぞれが意欲的に活動を行った。装置作成過程では度重なる失敗にもめげずに、繰り返し実験を重ねていた。装置作成、実験に集中するあまり、本来の目的を忘れ、活動報告が遅れることもあったが、一つのことに集中する熱意は伝わってきた。この熱意が次につながることを期待したい。(仲本 佳子)

「汚れた水を生活用水にする」

【活動概要】

世界には水に困っている人が多くいる。何時間もかけて水を運んできて、それが生活に使えるきれいな水とは限らない。どこの国でも簡単に手に入る道具で水をきれいにできる装置をつくれたら、きっとその人たちにも役に立ててもらえるだろう。この思いから活動が始まった。様々な調査を重ね、装置を作り、バックテストを用いた水質検査を行った。思うような結果が得られない時には、メンバー同士意見を出し合い、何度もチャレンジした。最終的には、泥水を生活用水レベルにする装置を完成させ、装置の作り方から、水質の検査までを英語の字幕をつけて動画にまとめた。

【担当者より】

チームワークのとれたグループでそれぞれの特技を生かし活動していた。「汚れた水をきれいにする」という抽象的なテーマを、理科教員の助けを得ながら根気強く具体的な数字で表すまで探究した。汚れた水を飲水にまでにしたという思いを次につなげてほしい。(仲本 佳子)

「流しそうめん試食会～ハラール対応を目指して～」

【活動概要】

筑坂ではインドネシアなどの姉妹校の生徒を留学生として受け入れている。彼らは日本食に興味を持っている一方で、日本におけるハラールのレストランは多くはないという現状がある。そこで、留学生にも安心して日本食を食べてもらい、そのなかで交流もできたらということで、「ハラールフード」の考案をした。

まず実際にハラールレストランで実食し、インタビュー等をしたうえで、めんつゆの試作をし、オリジナルのハラールつゆを考案した。また、筑坂産の野菜を天ぷらにし、一緒にふるまうことにした。実際に留学生を招いて、ふるまったところ好評であった。

【担当者より】

「ハラールフード」として、オリジナルのめんつゆを考案し、留学生も安心して食べることができるようにした点、また、流しそうめんというユニークな形式にすることで、同時に交流もできるように工夫した点が評価できる。しかしながら、オリジナルのめんつゆ考案の際に、ムスリムの人に意見をもらうなどすると、海外出身の人にもなじみの味により近づけることができたのではないかと。(高畑 啓一)

「JICA って何？」

【活動概要】

このグループは、JICA の活動について調査をした。筑坂には、JICA の青年海外協力隊を経験した教員がいるなど、生徒にとって聞いたことのある JICA ではあるが、実際にどんな活動が行われているのかについて知る機会が多くないということから、このテーマに決定した。

活動は、まず下調べをしたうえで、まず JICA 地球ひろばの一般公開に参加したが、より詳細に調査をしたいとの思いから、JICA の内容をはじめとし、高校生ができること、世界が直面する様々な課題について、JICA の訪問プログラムに参加し、聞き取りを行った。発表では、それらをまとめ、JICA の取り組みを紹介した。

【担当者より】

JICA 地球広場に 2 度参加、聞き取り調査を行い、発表会で図などを用いて紹介したことで、JICA について詳しく知らなかった生徒も、JICA の活動について知ることができた。しかしながら、専門用語が多くわかりづらい点があり、調査したことを中心に発表してしまったため、T-GAP の“アクション”の部分が明確に表現できるとより良いものになるのではないかと。

(高畑 啓一)

「筑坂の PV をつくろう」

【活動概要】

筑坂のホームページには、生徒目線からの視点が多くないという分析から、言葉では伝えられない学校の雰囲気や、生徒目線で動画にすることによって伝えようとした。また、留学生も多く受け入れているということも踏まえ、説明を英訳したものを動画のテロップとして加え、外国の方にも伝えることを目指した。

PV の内容としては、それぞれの系列の授業風景とともに説明を加えることとした。その際、グループ内で分担をし、PV に使用する写真の収集、説明およびその英訳、動画の編集に分かれ、活動した。

完成した PV は、生徒目線で系列の授業を紹介しており、その授業の特色や面白さを伝えようとしていた。

【担当者より】

とてもわかりやすく、筑坂について紹介する PV が完成した。動画の編集も試行錯誤を繰り返して、より発表会における他生徒の評価も好評なものも多く、目標として設定したものに近づいている。

一方で、筑坂の生徒だから共感する部分もあり、学校について何も知らない外部の方の視点を意識することも必要であった。

(高畑 啓一)

「東京オリンピックを見据えた、外国人向けピクトグラムの作成」

【活動概要】

2020 年の東京オリンピックの開催に伴い、日本にますます外国人訪問者が増加する背景から、外国人にもわかりやすいオリジナルのピクトグラムの作成を試みた。既存のピクトグラムを参考に、手を加えて理解しやすいピクトグラムの作成をした。一例として、喫煙所、荷物受取所、レジの場所などである。その上で、既存ものとオリジナルのものを比較し、どちらがより理解しやすいかを上野の国立西洋美術館前にて、外国人観光客を対象に英語で街頭インタビューを行った。

結果、既存のものの方が「わかりやすい」意見が多く見られたものの、オリジナルのものを支持するピクトグラムもあった。インタビューの際に、英語での質問項目づくりや外国人に話しかけるなど生徒たちにとっては挑戦も多かった。どのような点が外国人にはわかりにくく、同時にわかりやすくすることができるのかを考察するために必要な情報を実践から得ることができた。

【担当者より】

東京オリンピックに向けて何かしたいという気持ちから始まり、高校生の自分たちができることは何なのか、自己満足に終わるのではないかと葛藤の中で計画を進め、当初はグループ内での温度差もあった。結果、ピクトグラムというテーマを自分たちで探し出し、夏休み中も積極的にグループ活動を行っていた。また、街頭インタビューも「挑戦」が多いか、実施に至った生徒たちの熱意と努力を評価したい。(安藤 愛)

「日本の便利グッズを動画で紹介」

【活動概要】

通常、外国人が知る日本とは「富士山」や「サムライ」などであるが、外国人にまだ知られていない日本の技術力や発想力をアピールしたいと考えた。そこで、日本の便利グッズ（例：みかんの皮むき器など）を紹介する寸劇の動画を作成し、公開をした。グッズの選定、英語での台本作り、英語での字幕づくり、撮影などを根気強く英語教員の添削も受けながら実施に至った。動画を評価してもらうため、外国人観光客の多い埼玉県川越市で街頭インタビューを計画していたが、トラブルにより実施には至らなかった。しかし、本校の留学生に対し、動画を見せた上でインタビューを行い、大変肯定的な評価を得ることが出来た。我々日本人も知らなかった便利グッズが紹介されていたり、寸劇も興味を惹くよう工夫があり、外国人だけでなく我々も楽しませてくれる企画であった。

【担当者より】

自分たちも楽しみながら活動したいという気持ち強いグループであり、英語での作業に苦戦はしながらもとても根気強く活動をしている。便利グッズも外国人が手に取りやすい100円ショップのものを選定し、それを実際に使用する寸劇を通してその利便性を伝えている。さらに、冒頭には日本の技術がなぜ発展していったのか、日本人の気質にも触れていた。校内の英語教員（外国人）や留学生の協力も得ながら活動することができる、行動力があるグループであった。（安藤 愛）

「国際結婚の現状と課題」

【活動概要】

日本の結婚率が減少しているという現状を知り、その上昇のためには「国際結婚」も選択肢に入れられると提案した。国際結婚の利点や現状を知ることで、国際結婚について浸透させるとともに、ハードルが高いものである価値観を変えていくことが必要であると考えた。第1に、本校2年次生を対象に結婚や国際結婚に対する印象についてアンケートを行い、結果を集計した。第2に、外国人男性と結婚した日本人女性（本校生徒の母親）および本校外国人男性講師（日本人女性と結婚）の立場の異なる二者にインタビューを行い、国際結婚の実体験を把握した。それらを情報誌の形にまとめ、本校生徒とインタビュー協力者に対して還元を行った。その上で、今後結婚率を上げるためにはどうしたらよいか考察をした。

【担当者より】

アンケートの作成、実施、集計まで相当な労力があつたが、より情報誌として見やすくなるように努力を惜しまなかった。また、身近なところでインタビュー相手を見つけ、より国際結婚への抵抗をなくすという工夫も見られた。「本校はSGHだからこそ“コミュニケーションが取れないから国際結婚はしたくない”ではなく、興味を持ってほしい」というグループのまとめを読み、彼らの大きな成長を感じた。（安藤 愛）

「ユニバーサルデザインを取り入れた学校案内」

【活動概要】

本校は専門科目の実習教室が多く、校舎も順序よく並列しているわけではないため、在校生でも慣れるまで迷うことが多い。加えて外部から訪問される方も多く、外国人講師の方や留学生が訪れる機会なども多いため、何かと不自由を感じる場面が多い。そこで、校舎の案内を改善し、誰でも各教室の種類が判別できるよう、わかりやすいマークを考案し、それに英語標記を加えることなどを計画して夏休み中から作業を開始した。

作業内容は、①教室数や配置を確認する。②マークと地図を製作する。③マークの素材を選ぶ。④校内案内図に、マーク・英語名・日本語名の標記をする。⑤各教室にマークを配置する。といったものである。9月の文化祭での掲示を目標に作業を進めて行った。校内地図作成やピクトグラムの案を完成させるために改善に改善の苦労を重ねた。その間には一部のメンバーに負担がかかることも多かったが、文化祭では大型プリンタによる校内掲示も行われ、計画の通りに達成をすることができた。

【担当者より】

文化祭での案内掲示は叶ったが、事後アンケートによると予想外に校内の反応は低かったようだ。文化祭運営に心奪われている在校生に対しては、事前の地図の存在アピールが不十分でもあり、地図は文化祭の装飾に勝てなかったようだ。

アンケートは外部の方に対して行うと良かったのではないかな。また、文化祭の終了とともに掲示ははずされてしまったが、その後も掲示を継続してみると反応は違ってきたかもしれない。（後藤 卷子）

「資源ゴミとリサイクルについて」

【活動概要】

ゴミ拾いのボランティア活動という班員に共通した経験を生かし、ゴミを減らすことへの啓発行動を企画内容とした。班員の一人が夏休み中盤にシンガポールへ短期留学が決まっていたこともあり、その間にも活動を進められるよう、国によるゴミ軽減意識に関する比較調査を実施するという工夫を計画に組み入れた。

計画は、夏休み前半にシンガポールと日本のゴミ問題を事前調査する。中盤に留学先のゴミ処理の様子やゴミ問題に関する法律調査、さらに住民に意識調査を行う。後半は文化祭、若葉駅、筑坂ホームページでのポスター掲示を行う。とした。

シンガポールでの調査については、それを待つことで全体の計画が進まないといった悪循環も多少生じたり、得た情報を日本人への啓発につなげるために充分には生かし切れなかったと思われる。

班員の各々の家庭の1日の生ゴミを計量して実数値を捻出すなど、地道な努力の積み重ねも行いゴミ減量の難しさを実感したことで、分別の細かさやリサイクル率の高さとの関係性をもとに資源ゴミへの意識を高めることができた。

【担当者より】

アルミなどのリサイクルの方法などを調査しまとめている。しかしリサイクル率を上げるために、きれいにするために、何をすべきかといった部分はまとめとして述べられていない。（後藤 卷子）

「アボカド嫌いによるアボカド嫌いのためのアボカド料理」

【活動概要】

食べ物の好き嫌いをなくすことを提案することを目的としてプロジェクトを開始し、その対象を次第にアボカドに絞っていった。アボカドは世界で一番栄養価が高い果物であることがわかった。しかし、日本ではあまり食べられていないし、料理法もあまり知られていない。アボカドを嫌いな人が多いが、そもそも食べず嫌いの人が多いのではないかと考えた。では、海外での料理法で美味しい食べ方を見つけ、その料理を食べることでアボカドを食べる人が増えると期待した。計画は、まずアンケート調査により、アボカド好きか嫌いか、食べたことがあるかないか、アボカド料理を知っているか、どういうところが嫌いか、と徹底した“アボカドなぜ嫌いか調査”を行い、班員でおいしいアボカド料理を作り試食させ、“おいしい”と思わせた後、アボカドの見方が変化したか、食べたいと思えるようになったか、の事後アンケートで締めくくるといったもの。班員で自信作のアボカド料理を振る舞う姿はととても積極的であった。

【担当者より】

食べ物の好き嫌いをなくすことに高校生はなぜ一生懸命取り組むのか。しかし自分の好き嫌いは直さない。私の長年の疑問である。この班も計画について何度も何度も話し合っていく中、班員の誰一人として一向にアボカドを食べてみようと思わないので開始はスローテンポであった。食べ物で釣るという手法は生徒には評価が高く、栄養的講義のあとに試食させる方法も良い。但し、どの味だからどう工夫したという説明がないのは不十分であろう。(後藤 卷子)

「自分の国が恋しくならないように」

【活動概要】

1年次でカナダ校外学習に行った際、現地で日本食を食べることができず、1週間あるいは2週間の滞在でも日本が恋しくなった。この経験から、日本に来ている留学生や在日外国人の人たちも母国の料理を食べたくなるのではないかと考えた。本校にはよく東南アジア圏の留学生が来るため、東南アジア諸国に絞り、東武東上線沿線にある東南アジア料理店を調べ、マップにまとめることにした。インターネットで東武東上線沿線の駅から徒歩圏にある東南アジア諸国の料理店を調べ、店舗に電話をかけ、マップに記載する許可を取った。また、いくつかの店舗には実際に訪れた。マップは模造紙にまとめ、川越駅に掲載させてもらった。

【担当者より】

グループメンバーの校外学習での実体験からテーマを設定した。留学生が来ている時期ではなかったため、留学生たちが母国の料理についてどんな思いを持っているのか聞くことはできなかった。また、マップを掲載した効果はどれくらいあったのか測ることはできなかった。今後本校には留学生が来ることもあるので、これで活動を終わりにするのではなく、継続して活動を行えるといいのではないかと。(熊倉 悠貴)

「オーガニック野菜」

【活動概要】

人の身体はその人が口にしたものからできている。しかし、普段自分が口にしているものがどのようなところで、どのような工程で作られたものかを意識することはあまりにも少ない。1年生のときに産業社会と人間の授業で枝豆を作ったこと、2年生になり農業の授業で様々な野菜を作ったことから、普段口にしている野菜について考えようというところからスタートした。実際に調べ学習を進めてみると、有機JAS規格に適合したオーガニック野菜は、全てではないものの、農薬の使用が少なく、おいしく、栄養価も高いことがわかった。そこで、普段食べるものに関心を持ってもらうことを目的として、オーガニック野菜に関するポスターを作成、各クラスに掲示することにした。ポスター掲示の前後で全生徒にアンケート実施したところ、オーガニック野菜について言葉は知っているものの、どのような野菜をオーガニック野菜というのか正しい知識を持っている人は少ないことがわかった。そのことから、改めて普段口にしているものを意識して考えてみる必要性を感じた。

【担当者より】

このグループはテーマの設定でとても苦勞し、何度も担当教員に指導を受けてこのテーマにたどり着いた。実際の活動時間は短く、これから内容を深めていくことを期待していたため、テーマ決定が遅くなってしまったことが悔やまれたが、そのプロセスのなかでグループを運営する力を身に付けられたのではないだろうか。(熊倉 悠貴)

「外来植物の活用」

【活動概要】

日本には様々な外来植物が存在し、これらの生物は日本の在来植物に悪影響を及ぼし、生態系を壊すことが問題になっている。このような外来植物を駆除し、生態系を整えるためには多大な費用と労力がかかるため、それは進んでいないのが現状である。そこで、外来生物の有効的な活用方法が明らかになれば、駆除が進むと考え、本校周辺に存在する外来植物を調査し、その活用方法を調べ、それらを冊子にまとめ各ホームルーム教室に配置して本校生徒に周知することにした。本校周辺を実際に調査したのは、夏休み中であったため、植生している植物には限りがあったが、身近なところにも多くの外来生物が存在していることが分かった。その活用方法を調べることは困難であったが、様々な文献をあたり、まとめることができた。

【担当者より】

外来生物について農業系の授業で習ったところから、身近にある外来生物に興味を持ったグループである。農業系の授業を選択する生徒が中心となってペアを組み、役割分担をして活動を進めることができた。時間がなく活用方法を調べるだけにとどまってしまうが、実際に自分たちで活用してみたり、新しい活用方法を考え出したりできるとよかった。(熊倉 悠貴)

「アボカド嫌いによるアボカド嫌いのためのアボカド料理」

【活動概要】

食べ物の好き嫌いをなくすことを提案することを目的としてプロジェクトを開始し、その対象を次第にアボカドに絞っていった。アボカドは世界で一番栄養価が高い果物であることがわかった。しかし、日本ではあまり食べられていないし、料理法もあまり知られていない。アボカドを嫌いな人が多いが、そもそも食べず嫌いの人が多いのではないかと。では、海外での料理法で美味しい食べ方を見つけ、その料理を食べることでアボカドを食べる人が増えるかと期待した。計画は、まずアンケート調査により、アボカド好きか嫌いか、食べたことがあるかないか、アボカド料理を知っているか、どういうところが嫌いか、と徹底した“アボカドなぜ嫌い調査”を行い、班員でおいしいアボカド料理を作り試食させ、“おいしい”と思わせた後、アボカドの見方が変化したか、食べたいと思えるようになったか、の事後アンケートで締めくくるといったもの。班員で自信作のアボカド料理を振る舞う姿はととても積極的であった。

【担当者より】

食べ物の好き嫌いをなくすことに高校生はなぜ一生懸命取り組むのか。しかし自分の好き嫌いは直さない。私の長年の疑問である。この班も計画について何度も何度も話し合っていく中、班員の誰一人として一向にアボカドを食べてみようと思わないので開始はスローテンポであった。食べ物で釣るという手法は生徒には評価が高く、栄養的講義のあとに試食させる方法も良い。但し、どの味だからどう工夫したという説明がないのは不十分であろう。(後藤 卷子)

「自分の国が恋しくならないように」

【活動概要】

1年次でカナダ校外学習に行った際、現地で日本食を食べることができず、1週間あるいは2週間の滞在でも日本が恋しくなった。この経験から、日本に来ている留学生や在日外国人の人たちが母国の料理を食べたくならないのではないかと考えた。本校にはよく東南アジア圏の留学生が来るため、東南アジア諸国に絞り、東武東上線沿線にある東南アジア料理店を調べ、マップにまとめることにした。インターネットで東武東上線沿線の駅から徒歩圏にある東南アジア諸国の料理店を調べ、店舗に電話をかけ、マップに記載する許可を取った。また、いくつかの店舗には実際に訪れた。マップは模造紙にまとめ、川越駅に掲載させてもらった。

【担当者より】

グループメンバーの校外学習での実体験からテーマを設定した。留学生が来ている時期ではなかったため、留学生たちが母国の料理についてどんな思いを持っているのか聞くことはできなかった。また、マップを掲載した効果はどれくらいあったのか測ることはできなかった。今後本校には留学生が来ることもあるので、これで活動を終わりにするのではなく、継続して活動を行えるといいのではないかと。(熊倉 悠貴)

「オーガニック野菜」

【活動概要】

人の身体はその人が口にしたものからできている。しかし、普段自分が口にしているものがどのようなところで、どのような工程で作られたものかを意識することはあまりにも少ない。1年生のときに産業社会と人間の授業で枝豆を作ったこと、2年生になり農業の授業で様々な野菜を作ったことから、普段口にしている野菜について考えようというところからスタートした。実際に調べ学習を進めてみると、有機JAS規格に適合したオーガニック野菜は、全てではないものの、農薬の使用が少なく、おいしく、栄養価も高いことがわかった。そこで、普段食べるものに関心を向けようことを目的にして、オーガニック野菜に関するポスターを作成、各クラスに掲示することにした。ポスター掲示の前後で全生徒にアンケート実施したところ、オーガニック野菜について言葉は知っているものの、どのような野菜をオーガニック野菜というのか正しい知識を持っている人は少ないことがわかった。そのことから、改めて普段口にしているものを意識して考えてみる必要性を感じた。

【担当者より】

このグループはテーマの設定でとても苦労し、何度も担当教員に指導を受けてこのテーマにたどり着いた。実際の活動時間は短く、これから内容を深めていくことを期待していたため、テーマ決定が遅くなってしまったことが悔やまれたが、そのプロセスのなかでグループを運営する力を身に付けられたのではないだろうか。(熊倉 悠貴)

「外来植物の活用」

【活動概要】

日本には様々な外来植物が存在し、これらの生物は日本の在来植物に悪影響を及ぼし、生態系を壊すことが問題になっている。このような外来植物を駆除し、生態系を整えるためには多大な費用と労力がかかるため、それは進んでいないのが現状である。そこで、外来生物の有効的な活用方法が明らかになれば、駆除が進むと考え、本校周辺に存在する外来植物を調査し、その活用方法を調べ、それらを冊子にまとめ各ホームルーム教室に配置して本校生徒に周知することにした。本校周辺を実際に調査したのは、夏休み中であったため、植生している植物には限りがあったが、身近なところにも多くの外来生物が存在していることが分かった。その活用方法を調べることは困難であったが、様々な文献をあたり、まとめることができた。

【担当者より】

外来生物について農業系の授業で習ったところから、身近にある外来生物に興味を持ったグループである。農業系の授業を選択する生徒が中心となってペアを組み、役割分担をして活動を進めることができた。時間がなく活用方法を調べるだけにとどまってしまうが、実際に自分たちで活用してみたり、新しい活用方法を考え出したりできるとよかった。(熊倉 悠貴)

「動物の殺処分について」

【活動概要】

世界的にみて、日本はペットの殺処分が多いことに課題意識をもち、殺処分が行われていない海外の事例とくにドイツの事例を調査しつつ、坂戸市内の保健所にインタビューに行き、日本での現状を調べるとともに、殺処分ゼロにむけた活動を行うボランティアにも参加した。それらの経験をもとに、殺処分を日本でもゼロにしていく方法について考察、提案を行った。

【担当者より】

実際に、保健所へのインタビューを行い、ボランティアにも参加するなど、調べ学習と提案だけで終わらない活動であったところが評価できる。現在、Post Truth 時代と言われているが、現場に赴き、話を聞き、自分たちで考え行動していく姿勢は、Post “Post Truth” 時代を担う力をつけていくものであり、T-GAP 活動の終了後も大切にしてほしい。(建元 喜寿)

「海外の皆さんとスシパーティーを楽しむ」

【活動概要】

本校には、毎週水曜日の昼食時に「イングリッシュランチ」、放課後に「イングリッシュカフェ」と称して、ALT と一緒に英会話を楽しむ時間が設定されている。しかし、部活動で参加しづらい場合や、固定メンバーの参加が多くなるとあとから入りにくいという場合もある。そこで、日本の伝統的な食である寿司を活用した留学生やALT の先生との交流を、時間的余裕ととれる夏休みに実施するというのが本活動である。

高校生としては、予算が限られているなかで食材を確保するため、自分たちでキュウリやエゴマなどを水やり当番を決めるなどし、実際に畑で栽培し、手巻きずしの食材として活用した。夏休み中に、ALT の先生やご家族、同学年の生徒にも声掛けを行い、無事、スシパーティーを開催することができた。

【担当者より】

自分たちで課題を設定し（イングリッシュランチ以外の交流方法の提案、予算の制限の栽培による解決）実践できたところが良かった。また、最終的に、多くの参加者でパーティーを実施できたところが良かった。メンバー間の協力も良くできていた。(建元 喜寿)

「グローバルとは何かを本から学ぶ」

【活動概要】

グローバルとは何か、グローバル人材とは何か、このテーマを考えていると答えのない無限ループに陥ってしまうことがある。T-GAP で求められているこの「G」を考えていくときに、この「G」についてまとめられている書籍を読みこなすことを考えた。班員が「G」について書籍を探り、「グローバルを考える際におすすめの本」としてブックリストをまとめた。

これらの本のなかで、校内の図書館に所蔵されているものには、ポップなどを作り解説を加え、他の生徒もグローバルについて考える際の参考になるような活動を行った。

【担当者より】

グローバルとは何かを考え向き合った結果、自分たちで定義してみようという考えに至った。そこで、各人が関連書籍を読み、共有しあいグローバルとは何かについて考えていった。そして、その結果を友人たちと共有できた。グローバルということを見つめ直し、それを他者と共有し学びあう良い活動であった。(建元 喜寿)

「外来種について」

【活動概要】

生物多様性保全を進めていくうえで、外来種対策は欠かせない生態学分野における緊急の課題である。国内外に分布している外来種について、原生地と侵入先を世界地図にまとめ、地球規模で見える化を行った。また、外来種問題では、おもに日本への侵入種にスポットが当たがちであるが、日本から逸出した種もある。これらも含めてポスターを作成し、さらに昇降口に掲示を行い校内で共有した。

【担当者より】

外来種問題は、今後グローバル化がさらに進んでいく世界にあって、さらに重大性・緊急性の高いテーマである。生物の移動を地球規模でとらえ視覚的にとらえやすくまとめたところが評価できる。また、それを生徒が見やすい場所に掲示したことも評価できる。

今後、外来種問題はさらに拡大していくと考えられる。T-GAP の活動だけではなく、卒業研究また進学先での研究テーマになりうるものである。グループのメンバーのうち一人でも多くのメンバーが T-GAP 後も外来種問題に関わっていくことをのぞんでいる。(建元 喜寿)

【資料6】 GAP 活動ヒアリング 質問項目と評価の観点

ヒアリング①(質問項目と評価の観点)

「これから3つ質問をします。1つずつ質問していきますので、指名された人は答えて下さい。」

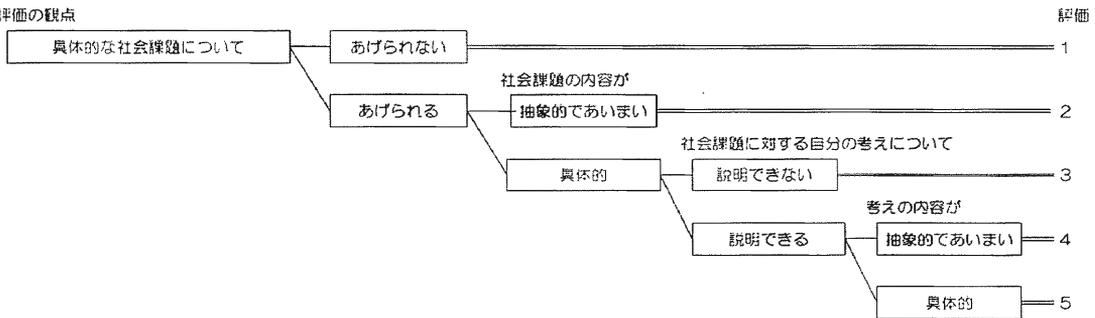
※3つの質問の受け答え中にチェックする事項

1. 言葉遣い・言葉の明確さ(両方で1点)	}	話す態度(0-2点)
2. 質問者の目を見て話しているか(1点)		
3. 質問者を見て話を聞いているか(1点)	}	聞く態度(0-1点)
4. ヒアリングにふさわしい服装か(1点)		
5. 話を聞くときの姿勢はよいか(1点)		外見(0-2点)
合計		5点満点

【課題発見力】

項目1: あなたはこの活動を通していろいろな社会課題にも関心を持つことができたと感じます。そのうちの一つを具体的にあげてください。またその社会課題に対する自分の考えを具体的に説明してください。

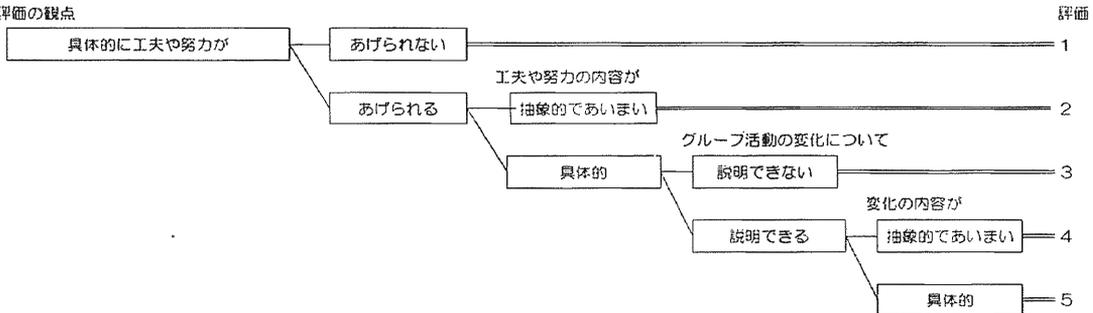
評価の観点



【アイデア力 企画力】

項目2: あなたはこの活動において、自分なりに工夫したり、努力したことは何ですか。そのうちの一つについて具体的に述べてください。また、あなたの工夫や努力によって活動はどのように変化しましたが。

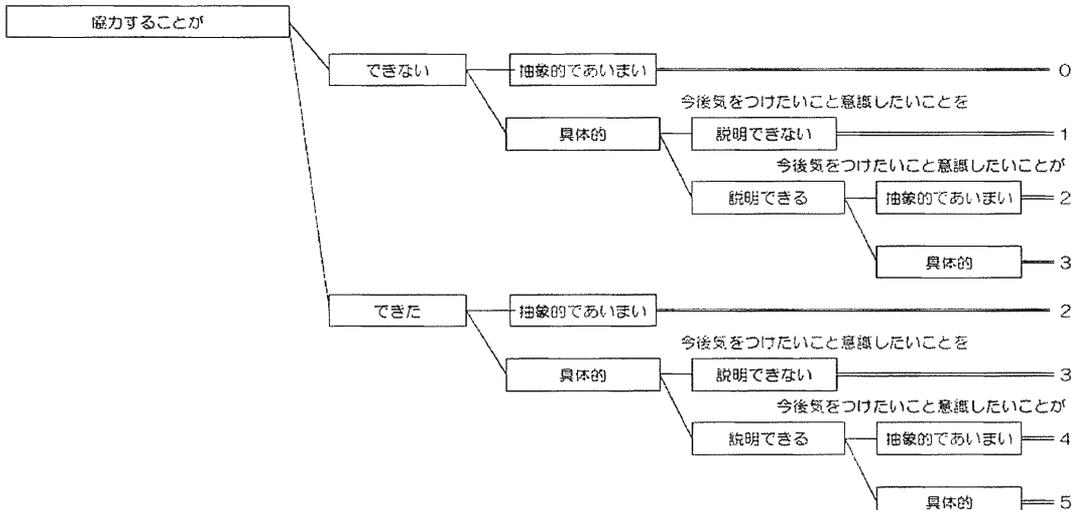
評価の観点



【チームワーク力】

項目3: これまでチームとして活動しました。あなたはメンバーと協力して活動することができましたか、「できた」「できなかった」について具体的な理由をあげて説明してください。また今後このようなグループ活動がある場合、気をつけたいこと、意識したいことを具体的に説明してください。

評価の観点



卒業研究 冬休み宿題

1. 情報カード10枚

先行研究を読み、情報カード（要約・引用どちらでも可）を10枚作成する。

2. レポート作成

先行研究を読んだ上で、レポートを作成する。（「研究」ノートp44・45参照。ただし、細かい体裁等の指定は異なる部分もあるので、以下の注意事項を守ること）

▼内容

- ①テーマ
- ②動機・目的
- ③先行研究のまとめ
- ④自分の研究の流れ・計画・方法→「研究」ノートp42参照
- ⑤引用・参考文献

▼体裁

- ①用紙サイズ：A4 縦長横書き
- ②フォント：10.5ポイント MS明朝体
- ③文字数と行数：40字×40行
- ④余白：上下左右30mm
 - ※文章は、常体（だ、である体）で書く
 - ※Microsoft Word で作成する
- ⑤表紙を付けること
- ⑥提出枚数：2枚（表紙は枚数に含まない。1枚でも3枚でもなく、2枚であること。）

▼提出期限

1月11日（水）LHRのときに体裁を整えて印刷し、ホチキスで止めたものを提出

▼評価のポイント

基準A：研究テーマ

到達度	レベルの説明
0	研究テーマが示されていない。
1	研究テーマが示されているが、明確には表現されていない。 もしくは、研究範囲が広すぎるため扱うことが困難である。
2	研究テーマが明確に示されている。研究課題は効果的に扱うことができ、よく的を絞ったものとなっている。